

農林水産部 若手勉強会の活動

～みどりの食料システム戦略の実現に向けて～

農林水産部

No.9

空心

仕事の
心

農林水産部若手勉強会とは

令和5年度は、まず農林水産業の現場への理解を深めていくため、家畜排せつ物や食品残さ等を活用しバイオガス、肥料等を製造する八重瀬町バイオガスプラント、県内の豚肉、牛両等の流通拠点施設である沖縄県食肉センター、水産物の卸売を行う糸満漁港新市場などの現地研修を行いました。参加した職員からは、「バイオガスプラントと食肉センターで行われていた食品残さ活用の取組や、新市場での衛生管理の取組を他地域でも進めることができればより良いのではないか」などの感想がありました。

農林水産部では、沖縄県内における農林水産業・食品産業の振興に向けて、様々な業務に取り組んでいます。各職員が現在担当している業務だけでなく、自身の興味がある分野を中心に、沖縄の農林水産業・食品産業全般への理解を深めていくことが、より一層現場に寄り添った施策の実現につながっていきます。このような観点から、若手職員が沖縄の農林水産業の現状、課題、特徴等への理解を深めることを目的として、「農林水産部職員自己研究会（通称「若手勉強会」）」を開催しています。

令和5年度の活動



食肉センターの見学



卸売市場の見学



バイオガスプラントの見学

グループワーク
～みどりの食料システム戦略の
実現に向けて～

若手のうちに自ら企画を行い主体的に業務に取り組む経験を積むことも重要であることから、初めての試みとして、有志の若手職員によるグループワークの取組も行いました。

農林水産省では、将来にわたって持続可能な農林水産業を実現するため、2050年までに「化学肥料の使用量を30%低減」、「化学農薬の使用量を50%低減」などの目標を掲げた「みどりの食料システム戦略」を策定し、関連する取組を推進しています。中長期的な、若い世代による将来を見据えた取組が求められていることから、この戦略の実現をグループワークのテーマとして設定しました。

そして、若手職員が戦略についてグループごとに議論しながら質問事項を整理し、有機JAS認証や特別栽培農産物認証（※）を取得された生産者の方、有機農産物を取り扱っている飲食店の方など、戦略に関連する取組を実践されている方へインタビューを行いました。「化学農薬の代わりに『スワルスキーカブリダニ』などの天敵昆虫を活用している」といった具体的な取組内容のほか、「栽培に手間がかかる一方で販売価格は上がらない」、「有機農産物の認知度は少しづつ高まっているのではないか」といった課題や将来への展望などを伺うことができました。伺った内容はグループで整理し、

た。戦略の内容と併せて資料にまとめまし



有機農産物を取り扱う
「浮島ガーデン」へのインタビュー



グループでの議論の様子



「識名農園」への インタビュー

農林水産業への影響

1 トマトが高級品に!?

温暖化による気温の上昇により、トマトの着花・着果不良や生育不良(肥大不足・裂果等)が発生しています。

2023年のは夏は猛暑が続いたためトマトの供給が急激に、平年の約1.6倍にまで上がりました。



トマトの不実農
トマトの裏膜

出典:農林水産省農業政策局農業政策課

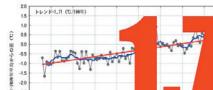
3 乳牛に異変



日本の乳牛は、暑さに弱く、気温が高くなると食欲を落とし、牛乳の品質が悪くなってしまうのです。

北海道では記録的な猛暑となった2023年、乳量の減少や感染症の増加等の影響がでています。

沖縄県の年平均気温は100年当たりで上昇している



1.7°C

いま、私たちは地球環境の危機に直面している

「絶滅の危機が高い」野生生物の種数は

44,016種

この数字は種全体の約30%にも匹敵する

出典: The IUCN Red List of Threatened Species

作成した資料①

おきなわオーガニック産地育成協議会
(有機農業推進総合対策事業活用)

取組概要 取材日：R6.1.12（金）

『取組品目』 バナナ（キャベンディッシュ系）
沖縄県産有機農産物の生産力向上や供給体制の構築を目指し、研修会やオーガニックタイプEXPOへの出展、オーガニックエコフェスタ（栄養面コンテスト）への出品を実施。



EXPO出展の様子

土どう宝協議会（糸満市）
(みどりの食料システム戦略緊急対策交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート活用)

取組概要 取材日：R5.12.5（金）

『取組品目』 キュウリ
BLOF理論（生態系調和型農業理論）に関する研修会を実施し、土壤診断、太陽熱養生処理、納豆菌・酵母菌の活用など、減農薬・減化学肥料につながる取組を実践。



普及に向けて

○有機農業に取り組むメリット
・資材高騰の影響を受けていく！

○有機農業の理解増進に向けて必要なこと
・消費者が分かりやすい認証制度へ整理
・慣行農業との作業体系の違いなどに関する専門教育
・「今日は〇〇の日だから有機農産物を食べよう♪」といった賛同意識を高めると耕種付けの推進

○みどり戦略の目標「耕地面積に占める有機農業の割合100ha」達成に必要なこと
・有機農業で使用できる栽培技術の開発
・販売促進等の出口戦略に関する支援

普及に向けて

○減農薬・減化学肥料を実践するメリット
・減農薬の取組を行うことで、薬剤散布作業の重労働から解放されることは大きな利点。

○取組のきっかけ
・「有機」という点にそこまでこだわりは無かったが、これまでの栽培手法では上手くいかないと感じたときに、土壤診断を活用し減農薬・減化学肥料の新しい方法を試してみようと考えた。

作成した資料②

は、「若手だけで直接話を聞きに行くのはとても良い経験になった」、「自ら企画を形にしていくことで、普段からどのように業務に取り組むべきか、何を意識すべきか考えるきっかけとなつた」といった感想がありました。



パネル展示の様子

パンフレット配布、
パネル展示を行います。

広く一般の方は「みどりの食料システム戦略」について知っていたが、作成した資料については沖縄総合事務局ＨＰへ掲載しているほか、パンフレットとして配布を行っています。また一部についてはパネルの形にして、当局庁舎1階の「行政情報プラザ」

※化学農薬と化学肥料の不使用又は使用量削減に関する認証。詳細は群星2023年9・10月号でご紹介していますのでこちらの二次元コードからご覧ください。

作成した資料は
こちら |



南城市役所等において展示を行いまし
た。今後も様々な場所で活用いただけ
ればと考えておりますので、パンフ
レット配布、パネル展示のご要望など
ございましたら、お気軽にお問合せ先
までご連絡ください。



作成した資料③

お問合せ先
農林水産部 農政課
☎ 098-866-1627

